

社会科

体験的な活動が生きる中学年社会科の学習

— 4年「鉄道を高架にする」の単元構成を通して —

朝 倉 淳

1. はじめに

(1) 児童の実態と中学年社会科の課題

三原市では、JR三原駅付近を中心に市内の交通は著しく混雑し、安全面をはじめとして市民の生活に大きな支障をきたしている。児童もまた、こうした状況のなかで毎日の登下校をしている。しかし、4年7学級(37名)を対象とした実態調査によると、自分の登下校について何らかの問題を感じている者は16名にすぎない。また、交通渋滞や安全面からの問題点を感じている者はわずかに7名である。多くの児童は、地域の社会的現象のもつ問題を問題として感じていない。

中学年社会科では、主として地域社会の社会的現象について学習する。しかし、前述した例のように、地域の社会的現象もそれがただ身近にあるというだけでは、児童の興味、関心の対象とはならず、問題も生まれてこない。また、問題が生まれてこなければ、児童が感じたことや疑問や意見を出し合ったり、調べたり、まとめたりする活動も主体的なものにならない。

筆者はこれまで、問題となっている事実や、問題の解決のために取り組まれている事実から出発して、児童が「どのように、どのような」「なぜ、どうして」「どうしたらよいのか」を調べたり、考えたり、判断したりしていく単元の構成を多く行ってきた。しかし、児童の実態からすると、地域において問題が生まれるところから出発し、児童自身がまず問題そのものを感じるような構成も必要ではないかと考えるのである。

(2) あらわす力を育てる社会科の学習

本年度、本校の研究の副題は「あらわす力を育

てる授業」である。社会科におけるあらわす活動としては、話し合い活動、新聞などをつくる活動、劇化などの表現活動などを考えている。社会科の学習でこのような活動の力を育てる柱を、次のようにたてた。ただし、この4つは別々のものではなく、互いにかかわりあっている。

- ① しっかりと感じ、思い、考えさせて、あらわす内容を持たせること(内容)
- ② あらわしたいという気持ちを持たせること(意欲)
- ③ あらわす場を多く設けること(経験・方法)
- ④ あらわすことによってお互いが高まろうとする集団をつくること(集団)

社会科でめざすあらわす力をより大きくとらえるならば、それは「現実の社会の中の問題をとらえ、解決していく力」であると考えられる。ここでも前述した、問題の生まれるところから出発し、児童自身がまず問題そのものを感じるような単元の構成が求められる。それによって、問題が生まれそれが解決されていく(解決されようとしている)過程を児童がたどることができるからである。

これまで述べてきたような課題意識をもとに、本稿では、いかにして、中学年の児童に社会の中の問題を感じさせるかということについて考察する。

2. 体験的な活動が生きる

中学年社会科の学習の構想

(1) 体験的な活動の重視と研究仮説の設定

社会科における体験的な活動については、すでにいろいろな整理がされているが、共通したとら

えにいたっていない。ここでは、次の3つのタイプの活動を考えている。

- ① 見たり、聞いたりする（観察、見学、調査活動）
 - ② 試す（動作化、追体験）
 - ③ あらわす（模型、地図、年表、新聞、紙芝居などをつくる活動、劇化などの表現活動）
- こうした体験的な活動には、次のような特長がある。

- ① 児童に自然のうちにいろいろな感覚を働かせることができる。
- ② 体験的な活動を行うには、体全体を使う必要があり、より機能的な態度になる。
- ③ 体験的な活動を行うと、その活動そのものや、その結果から、つねにいろいろな情報が返ってくる。
- ④ 体験的な活動を行うと、多様な感じ方、見方、考え方や、新しい発見、驚き、感動が生まれやすい。
- ⑤ 集団での活動では、協力、責任などの態度を育てることができる。
- ⑥ 人々の気持ちや考えを共感的に理解しやすい。

こうした特長から、体験的な活動は、児童の現実生活の問題をより鮮明にしたり、社会のかかえる問題を自分の問題として感じさせたりするのに有効な活動である。したがって、単元の導入の段階に、体験的な活動を位置付けることによって、児童に問題を感じさせることができると考える。そこで、次のように研究仮説を設定した。

単元の導入の段階に、体験的な活動を位置付けるならば、児童はその活動の中から問題を感じ、それをあらわしていくであろう。

(2) 体験的な活動が生きる単元構成

体験的な活動が生きるとは、児童がこの活動によって感じた問題や得たものが、以降の学習活動を支えていくということである。

そのような単元構成にしていくには、まず、教

材化していく地域素材の選択が重要である。体験的な活動が生きる中学年社会科の教材には、次のような要件を持った素材が適していると考えられる。

- ① 児童の発達段階に即している。
- ② 児童の現実生活における問題や、社会のかかえる問題が含まれる。
- ③ 問題に対する地域の人々の活動を共感的にとらえられる。
- ④ 観察、見学、調査など、地域との直接的なふれあいが可能である。
- ⑤ 学習に体験的な活動をもりこみやすい。

次に、体験的な活動が生きるように単元の構成をしていくときの主な柱は、次の3点である。

- ① その教材に適した体験的な活動を用意し、単元の導入の段階にそれを位置付ける。
- ② 単元の学習をまとめ、深める段階に、つくる活動、表現活動を位置付ける。
- ③ 体験的な活動は、調べたり、確かめたりする場にも適宜活用する。

こうした柱によって構成された単元は表1のような流れになる。

段階	学習活動	学習活動の主なねらい
感じる 問題を感じる	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体験的な活動をする ○ 感じたことを話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身のまわりや社会の問題を感じさせる ○ 感じたことをはっきりさせる
求める 問題の背景、原因、解決方法、解決への営みなどを求める	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題の背景、原因を調べる ○ 解決方法を考え、話し合う ○ 現実に行われている解決への営みを調べる ○ 体験的な活動をして確かめる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題の背景、原因と解決への営みを具体的に理解させる ○ 人々の願いや悩みを共感的に理解させる ○ 地域社会の一員としての自覚を持たせる
深める 学習をまとめ、深める	<ul style="list-style-type: none"> ○ 紙芝居や劇、新聞などをつくる ○ 作品を発表したりして、交流する <p>(現実生活での実践)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習をふりかえらせ、まとめさせる ○ 多様な見方、考え方、あらわし方に気づかせる

(3) 研究の方法

これまで述べた構想をもとに、次のような手順で研究を進める。

- ① 研究仮説（単元構想モデル）をもとに、単元構成、指導案の作成を行う。
- ② 授業実践を行う。
- ③ 授業記録、その他の資料をもとに、仮説を検証し、問題点を明らかにする。
- ④ 問題点に対する改善案、今後の課題を示す。

3. 実践例 4年「鉄道を高架にする」

(1) 単元について

三原市では、市を東西に走るJR山陽本線、南北に走るJR呉線、さらに慢性的な渋滞となっている国道2号線によって、市街地が分断されている。そのため、市内の交通は、著しく混雑し、安全面をはじめとして、市民の日常生活に大きな支障をきたしている。こうした状況の抜本的な解消のために広島県が事業主体となって、国、県、市、JRが計300億円を負担し、現在、鉄道高架化事業が進められているところである。1991年度の完成をめざして、児童の目の前で進められている高架化事業をとりあげることによって、地域の人々

表2. 単元構成と目標分析

段階	次 (時数)	主な学習活動	目標分析	知識・理解	技能 (含思考・操作)	態度 (含表意)
感じる	1. 私たちの願い (2)					
求める	2. 鉄道高架のできるまで (3)	・鉄道高架にする手順と方法、工事のようすを調べ、話し合う		・三原駅付近の踏み切りは遮断時間が長く、交通の渋滞や安全などで市民の生活に支障をきたしていることが分かる	・問題の解決方法を自分なりに考えることができる ・パンフレットや新聞記事などから鉄道を高架にする手順、方法、そこにみられるいろいろな工夫を調べることができる	・三原駅付近の踏み切りのもつ問題を感じる ・人々の願いに共感する
	3. 跡地の利用と新しい町づくり (1)	・跡地の利用の仕方と新しい町づくりのプランを調べ話し合う		・鉄道を高架にする手順と方法が分かる	・鉄道を高架にする手順と方法、工事のようすについて実地に確かめることができる	・地域社会の一員として、自分たちの生活を見つめていく態度を育てる
深める	4. 三原駅の見学 (2)	・見学の計画をたてる ・三原駅を見学し、高架にする手順と方法、工事のようすについて見たり、尋ねたりして確かめる		・騒音や振動を防ぐための工夫や交通を止めずに工事を進めるための工夫が分かる	・鉄道高架ができるまでの一場面を劇で構成することができる	
	5. げきづくりと発表 (2)	・グループごとに鉄道高架ができるまでの一場面を簡単な劇にして発表し合う		・地域では、安全面など生活向上、安定のために今もいろいろな努力がされていることに気づく	・自分なりに学習をふりかえり、新聞にあらわすことができる	・地域社会の調和のとれた発展を願う気持ちを育てる
	6. 新聞づくり (2)	・各自で新聞をつくり、掲示して交流する			・多様な見方、考え方、あらわし方に気づく	

の願いが実現していく過程を理解させ、生活の向上、安定のために現在もいろいろな努力がなされていることに気づかせるとともに、地域社会の一員として地域社会の調和のとれた発展を願う気持ちを育てることができる。と考える。

(2) 単元の目標

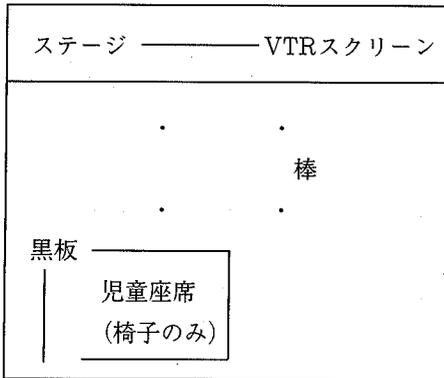
- 三原市で進められている鉄道高架化事業の目的や工事の手順、工夫、跡地の利用の仕方などを理解させ、地域では、生活の向上、安定のために現在もなおいろいろな努力がなされていることに気づかせる。
- 話し合いや劇、新聞づくりに、パンフレット、見学して得た資料などを利用する能力を育てる。
- 健康で安全な住みよい町づくりを願う人々の思いに共感させるとともに、地域社会における自分たちの生活を見つめ、地域社会の調和のとれた発展を願う気持ちを育てる。

(3) 単元構成と目標分析

単元の導入の段階に位置付ける体験的な活動としては、体育館で模擬の踏み切りを渡る活動を用意した。また、単元の後半での深める活動としては、鉄道高架化事業の一場面をグループで劇化する活動、各自で新聞をつくる活動を用意した。

(4) 第1次第1時の学習指導案

- ① 学年 第4学年 第7学級 37名
 ② 場所 小学校体育館



① 本時の目標

模擬の踏み切りで列車の通過を待ち、感じたことなどを話し合う活動を通して、三原駅付近の踏み切りは遮断時間が長く、交通の混雑の一因となり、安全面をはじめとして市民の日常生活に支障をきたしている問題に気づく。

② 準備物

- (T) ビデオプロジェクター 市街地図
 カード カセットレコーダー
 録音テープ

(P) ファイル

③ 授業過程

本時の授業過程は、表3のとおりである。

表3. 第1次第1時の授業過程

学習事項	授業過程	学習過程	集団過程
1. 学習課題の設定 (集中する) (イメージする)	○ 感覚や視覚に働きかけ、集中させる。 ○ 自分が踏み切りに対して抱いている感じを意識させる。	○ 音を聴いて、何の音かをあてる。 ・動物の鳴声 ・町で聞こえる音 ・踏み切りの警報音 ○ 踏み切りという言葉からイメージすることを出し合う。 ・電車が通る ・待っている 踏み切りで待っているとき どんな気持ちができるだろう。	(全) 全体の場で集中と弛緩のリズムをつくる。 (全) 自分以外のイメージにふれさせる。
2. 学習課題の追求 (体で感じる) (言葉であらわす・イメージを拡げる)	○ 踏み切りを待っているときの心の中を体感させるとともに、遮断時間の長さに気づかせる。 ・地図でどこか踏み切りか示し、どんな人が何のために踏み切りを渡ろうとしているのかを簡単にイメージさせておく ○ 踏み切りは、交通の混雑の一因となり、安全面をはじめ市民の日常生活に支障をきたしている問題に気づかせる ・緊急車両の通行の問題は、録音資料で気づかせる ※ 自分なりに感じたことを発表や挙手であらわしているか。	○ ビデオを見ながら、模擬の踏み切りで、列車の通過を待つ。 ○ 踏み切りで待っているときに感じたこと、考えたことについて話し合う。 ・まだ開かない ・危ないな ・なんとかならないのか ・バスにおくれる ・消防自動車、救急車が通れない	(全) たくさんの人が、踏み切りで待っている様子をとらえさせる。 (全) いろいろな感じや考えにふれさせる。
3. 次時への発展 (イメージする) (次時の学習課題)	○ 問題の解決方法に意識を向けさせる。 ○ 次時の見通しと学習への意欲を持たせる。	○ 踏み切りの問題を解決する方法を考え、出し合う。 ・地下道をつくる ・橋をかける ・電車が上を走るようにする ○ 次時の学習課題を設定する。 ・どのようにして、問題を解決すればいいのだろうか	(個)→(全) 各自でみつけた方法を、出し合わせる。 (全) 次時の学習課題を共通理解させる。

(5) 第1次第1時の授業の実際

T：音あてゲームをします。何かの鳴声かもしれませんが。町で聞こえる音かもしれません。音が消えたら手を挙げてください。

(音あてゲームをする。・せみ・かえる・バス・踏み切り)

T：「踏み切り」という言葉から何か頭にうかんできますか。

P：電車

P：汽車とかが通っていて、人が歩いていて、事故がある。

P：地図の電車が走るところの絵

P：踏み切りの赤いランプ

P：駅

(同様のことが頭にうかんできた児童を挙手で確認する。)

T：「人が歩いていて」とでてきたけど踏み切りを歩いて渡ったことのある人？

P：(全員が挙手)

T：踏み切りの音が鳴ってなくてずっと渡れたことのある人？

P：(全員が挙手)

T：踏み切りで渡れなかったことのある人？

P：(多数が挙手)

T：そのときどうだった？

P：電車が通ってまたカンカンと鳴って電車が通らなかった。

P：半分まで行ってカンカン鳴って、最後まで渡るほうがいいのに渡らないでかえってきた。

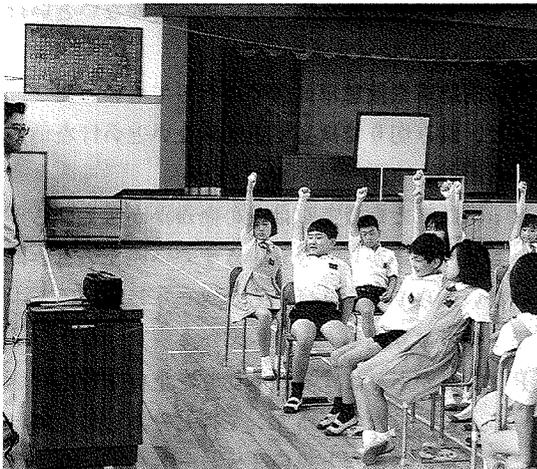
P：1回通って、今度はゴンゴンといってもう1回通ることがあります。

T：踏み切りで2回電車が通ったこともあるそうですね。カンカンと鳴っている踏み切りにひっかかったことのない人もいますので、今から踏み切りを渡ってみよう。あっちの棒がたっているところが踏み切りです。今から渡る踏み切りは(地図をだして)学校がここで、こう行ったことです。じゃあ、踏み切りの向こう側から渡る人、こちらから渡る人に分かれて踏み切りの前に行こう。

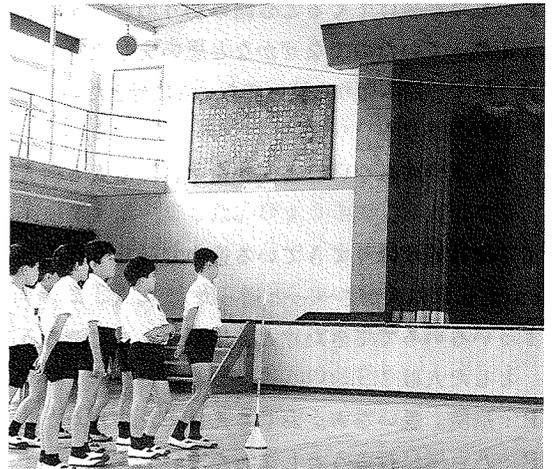
P：(移動する。)

T：今、先生が立っているところに線路があります。本当はこんなところにいたら危ない。渡る前に今から言うことを頭にうかべてください。まず、目をつぶりましょう。自分は、どういう役をするか決めてみましょう。男の人ですか。女の人ですか。小学生？中学生？大人？子ども？どんな用事でしょうか。学校の帰り？仕事？買物？(ビデオ、スタート)

P：(ビデオをみながら踏み切りが開くのを約6分間待つ。その間、3本の列車が通過する。踏み切りが開くと、踏み切りを渡って、自分の席にもどる。)



「あっ 踏み切りの音だ！」



「まだ開かないのかなあ」

T: 踏み切りを待っているときに心に何か感じましたか。

P: すこし電車がくるのが長くて、すこしくたびれて長く感じました。

Pn: 同じです。

P: 電車がいっぱいはいくるのでじれったくなった。

P: いつ電車がくるのかと思いました。

P: 付け加えて、とても長かったので電車がいつくるのか分からないくらいくるのがおそかったと感じました。

P: 踏み切りをずっと待っていて踏み切りがあがって歩こうとしたとき足が痛くて歩きにくくやっとな歩けた。

P: あがるのを待っていて、いつかなといらした。

P: ○○さんが言ったように、2台くるだけでなく、3台もきたのでちょっと長いように思えたり、いつになったら踏み切りがあがるのかと思いました。

T: なるほど。電車は、1台2台でなく、1本2本と数えてね。

P: ずっと待っていたら腰が痛くなった。

P: あまり待つ時間が長かったので、こないのかなと思ったりきた。

P: 長い時間待っていたので足がとても痛くなった。

P: 電車が続けてくるとき踏み切りの音がすこし変わっていたのでなぜかなと思いました。

P: 早く、踏み切りを渡ってあっちに行きたいなあと思いました。

P: よく分からないけど何か途中で渡る人も何人かいた。

T: 遮断機が降りてきている途中で…

Pn: 自転車の人がさーっと通った。

T: いろいろでできたけど、用事があって渡ろうとした人は？

P: 病院。長いなあ。おじさんはくたびれた。

P: 八百屋に行こうとしました。

P: 遊びに行こうと思って、はやく行きたいなあ

とと思いました。

P: ○○さんに付け加えて、遊びに生きたいなあと思って、その時に遮断機がおりてきて、腹がたった。

P: バスに乗ろうとして歩いていて、遅れてたのでちょっといやだった。

P: 私は、お買い物に行っていて、帰るときに行けなくなって、はやく帰らないとお母さんにおこられて、ご飯に間に合わなくなる。

P: 早く会社に行かないと社長から首になる。

P: 遊びに行くとき早く行かないと暗くなる。

T: ちょっと待ってよ。バスに遅れるんだったらもっと早く出ればいいんじゃないの。暗くなるのも、もっと早く、出たら。

Pn: だめ。

T: だめ？

P: 病院なんか。

T: タクシーは？

Pn: タクシーでもだめ。困る。すごく困る。

T: そんなに困る？困るのはここに出てきたことだけかな。

P: 救急車。

T: 救急車がどうして困るの。

P: だって3分以内に行かないと何か何かなる。

P: ○○君が言ったことは、救急車は人がもし中に入って苦しんでいたら、踏み切りが降りたら乗っている病気の人もしやだし、乗っている人も死ぬかもしれないから、早く行かないといけない。

P: 消防車や救急車は信号は行ってもいいんだけど、踏み切りでは必ず止まらないといけなから困ります。

P: 消防車とか救急車は人の命がかかっているかもしれないから、そういうすぐいかないといけなからふみきりは困る。

T: やっぱり困るか？

P: 意見があります。踏み切りを上げ下げしている人に言ったり、ボタンを押ししたりして、開けてもらえるんだと思います。

P: 質問があります。電車が通る前に開けてもらっ

ていたら、電車にはねられてしまうかも知れないから、どっちみち困るんだと思います。

P：ボタンを押しても、電車がそこまで来ていたらブレーキがすこししかきかないから、はねられるのではないですか。

Pn:同じです。

P：そんなに踏み切りをすぐ開けられるんだったら、踏み切りでべつに普通の車でも止まる必要はないからそうはいかないと思います。

P：ボタンをおしたら救急車が通っている間だけ電車の時間が遅くなるから、待っていたほうが良いと思います。

T：何か忘れてない。ここに踏み切りがある。待っていたときのことを思いだしてよ。人がたくさんいたね。人だけでなく、車も自転車もいたね。電車が止まったとしても、救急車はどこを通るの。ジャンプ？ 三原市の市民の人が三原の交通はこうですねと書いたものがある。ここに、それを、みんなが分かるようになおしたのがある。

(プリント配布)

P：(音読)

T：三原の人がこういうことに困っています。みんなも三原市に住んでいますね。この？はいる？

Pn:知らない。

T：特に人の命、これはがまんとかじゃないね。こんなに困ることを解決できないだろうか。

Pn:(挙手)

T：解決するにはどうしたらいいのだろうか。方法をいろいろと見つけて、プリントに書いてもらん。

(プリントを書いている途中でチャイム)

T：チャイムが鳴ったので終わらしましょう。

次の時間はどのような学習をしますか。

P：今書いている解決の方法をみんなで出し合って、どうしたらいいか話し合えばいいと思います。

Pn:同じです。

4. 考察

本単元では、単元の導入部分にあたる第1次第1時に体験的な活動を位置付けた。ここでは、この時間の授業観察、授業記録、授業後の感想などをもとに研究仮説の検証を行う。また、単元構成モデル、単元構成、学習指導案、授業実践の問題点をさぐり、その改善案を示す。

(1) 研究仮説の検証

ここでは、模擬の踏み切りを渡る活動によって、児童が三原駅付近の踏み切りの持つ問題を感じたか、それをあらわしていたかどうかを確かめることになる。

まず、先に示した授業記録から、踏み切りを渡る活動以降の児童の活動のようすを大きく次のようにまとめた。

- ① 踏み切りを渡る活動で感じたことがすなおに出されている。
- ② 踏み切りを渡る活動で感じた内容は、「いらいら」「じれったい」などの心の動き、「遊びにいきたい」「首になる」などの自分のとった役割からみた心の動き、「腰が痛い」「足が痛い」などの体のようすである。
- ③ 話し合いの内容は、どちらかという個人的内容から、ゆさぶりなどによって、社会的な内容へと変わっている。

次に、枠内に例示している文章は、児童が、授業後3分程度、授業の感想をまったく自由な形で書いたものである。

(O女) 私はびょういんにいく女の人でした。ふみきりでおそくなりました。足元がふらついてしまいました。びょうきでしんどいのにふみきりにひっかかって、もっとしんどくなりました。どうにかならないかな。もしも、きゅうきゅう車やしょうぼう車がふみきりにひっかかってしまって人の命をうばってしまうことになったらどうなるのでしょうか。—略—

(T男) ふみきり。なにげなく思っている

救急車や消防車などがいやになるくらいこまっている。人がしんでしまいそうなのに、まだ交通をなおしていないということは、どう考えてもおかしいと思います。—略—

(I女) 今日はこの教室ではなく体育館で、しかもいろいろな先生が見に来られて少しプレッシャーがかかった。でも10分くらいつと気持ちもゆるんできた。そして、自分自身を100パーセント出せたと思う。それに今まで私がしらなかったことも勉強の中にいっぱい出た。とても、自分のためになってよかった。みんなも勉強になったことがいっぱいあったと思う。—略—

このような自由感想にどんな内容が書いてあるかを整理したものが表4である。

表4. 授業後の感想の内容、表現

記述の内容、表現	記述のあった人数(名)
1 ~をした。	(35名中) 8
2 ~ (事実)が分かった。	5
3 ~ (問題)が分かった。	12
4 ~ (問題)を感じた。(体で)	7
5 ~ (問題)を感じた。(心で)	13
6 ~ (問題)と思った。	12
7 ~ (考え)と思った。	12
8 ~ (方法)すればいい。	14
9 ~になってほしい。~したい。 (願ひ、意志)	4
10 ~できた。~できてよかった。 (授業態度、達成感)	9

(ほとんどの児童の感想に、複数の内容、表現がふくまれているので、記述のあった人数の合計は35名をこえる)

ほとんどの児童(35名中の31名)がO女やT男のように、自由な感想の中に、自分がとらえた問題(表5の3, 4, 5, 6にあたる)や、その問題に対する考え、方法、願ひや意志(表5の7, 8, 9にあたる)のいずれかを記している。また、直接、問題ふれていない感想は、I女の感想のように、授業へのとりくみ、態度についての記述となっている。

授業観察・授業記録、感想から、十分には言えないが、体験的な活動によって、児童が今まで何気なく見てきた、あるいは見過ごしてきた地域のなかにある問題を感じ、それが発表や感想

にすなおにあらわされたと考える。したがって、研究仮説は、検証された考える。しかし、同時にいろいろな問題点もみえてきた。次にその問題点と改善案について記す。

(2) 問題点と改善案

① 単元構成モデル

前述しているように、本単元は、表1に示した単元構成モデルをもとに構成されている。本単元の実践を終えて、このモデルをもとに単元を構成するとき次のことを留意する必要があると感じた。

⑦ 教材の精選

体験的な活動をとり入れた単元構成をする時、指導時数がどうしても多くなる。しかしすべての単元に同じように時間をかけた展開はできない。そこで、年間を見通して教材の精選をしたり、重点のおき方に配慮したりする必要がある。同時に、体験的な活動をとり入れた場合でも、しっかり時間をかける場と短時間で扱う場のめりはりをつけた指導と十分な準備によって、不必要に時数を増やさないようにしなければならない。

④ 柔軟な取り扱い

このモデルは、体験的な活動が生きる単元構成を考え際のめやすとなる。しかし、これはあくまでもモデルであり、単元の構成にあたっては、個々の教材の特徴に留意し、柔軟に考えていかなければその実をあげることはできない。

② 本単元の単元構成

本単元では、第1次第2時で、全員の児童が市民、市・県・国、JRなどの役割をとり即興的な劇表現として問題の解決方法を話し合う方法を試みた。また、第3次では、グループごとの劇化により学習のまとめをした。

こうした活動に対する児童の感想は、「楽しい。」「また、やりたい。」「よく分かった。」という肯定的なとらえがほとんどであった。しかし、指導する側からみると、特に第3次の劇化では、その活動が自己満足的なも

のである、内容の深まりがなく見ている者に伝わっていかない、具体的でないなどの問題点を感じられた。

この活動のねらいは、劇化によって学習内容を自分たちで確かめ、まとめるためと、それを他に伝え交流することで学習を深めるためであった。しかし、それが達成されなかったのは、あらかずことの不慣れ、不十分さと、伝えるという意識の低さが原因であり、その部分への指導、配慮が十分でなかったと考えている。

③ 第1次第1時の学習指導案

実際にどれくらいの時間、踏み切りが遮断

させているかを数値化した図を用意していたが、この時間では使わずに第2時の導入に用いた。しかし、本時の終末で解決方法に意識を向けさせる前に提示し、体験的な活動で感じたことを裏付けた方がよかったように思う。

また、踏み切りはもともとは安全を守るための施設であることもおさえる必要を感じた。

学習指導案では、解決方法を考え出し合うことで次時へ展開させようとしたが、時間的なことや流れの面から、実際に展開したように、方法を考えメモするでとどめておいてよいと思う。

表5. 第1次第1時の授業過程の修正案

学習事項	教授過程	学習過程	集団過程
1. 学習課題の設定 (集中する) (イメージする)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 聴覚や視覚に働きかけ、集中させる。 ○ 自分が踏み切りに対して抱いている感じを意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音を聴いて、何の音かをあてる。 <ul style="list-style-type: none"> ・動物の鳴声 ・町で聞こえる音 ・踏み切りの警告音 ○ 踏み切りという言葉からイメージすることを出し合う。イメージすることを出し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・電車が通る ・待っている 	<p>(全) 全体の場で集中と弛緩のリズムをつくる。</p> <p>(全) 自分以外のイメージにふれさせる。</p>
2. 学習課題の追求 (体で感じる) (言葉であらわす・イメージを拡げる) (確かめる)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 踏み切りを待っているときの心の中を体感させるとともに、遮断時間の長さ気づかせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・地図でどこか踏み切りか示し、どんな人が何のために踏み切りを渡ろうとしているのかを簡単にイメージさせておく ○ 踏み切りは、もともとは安全を守るための施設であるが、現在では交通の混雑の一因となり、安全面をはじめ市民の日常生活に支障をきたしている問題に気づかせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・緊急車両の通行の問題は、録音資料で気づかせる ※ 自分なりに感じたことを発表や挙手であらわしているか。 ○ 遮断回数多さと時間の長さ気づかせ、体で感じた問題を確かめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ビデオを観ながら、模擬の踏み切りで、列車の通過を待つ。 ○ 踏み切りで待っているときに感じたこと、考えたことについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・まだ開かない ・危ないな ・なんとかならないのか ・バスにおくれる ・消防自動車、救急車が通れない ○ 資料から、1時間の踏み切りの遮断回数と時間を読み取らせる。 	<p>(全) たくさんの人が、踏み切りで待っている様子をとらえさせる。</p> <p>(全) いろいろな感じや考えにふれさせる。</p> <p>(全) 全員で資料を読み取らせる</p>
3. 次時への発展 (イメージする) (次時の学習課題)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題の解決方法に意識を向けさせる。 ○ 次時の見通しと学習への意欲を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 踏み切りの問題を解決する方法を考え、メモする。 <ul style="list-style-type: none"> ・地下道をつくる。 ・橋をかける ・電車が上を走るようにする ○ 次時の学習課題を設定する。 <ul style="list-style-type: none"> ・解決の方法を出し合って、どうしたらいいか話し合おう。 	<p>(個) 各自で考えさせる。</p> <p>(全) 次時の学習課題を共通理解させる。</p>

踏み切りで待っているとき
どんな気持ちができるだろう。

こうしたことを修正した授業過程の案を表5に示しておく。

5. 今後の課題

先に述べた問題点などから、今後の課題を次の3点にまとめた。

- ① 児童が伝える意識をはっきりと持ち、その方法を身に付けながら、意欲的にあらわしていくような場をどのように設定すればよいかについて構想し、実践していく。
- ② 社会科の学習のなかでお互いが内なるものをあらわした後、児童がそれをどのように練りあげるように仕組んでいくか、また、練りあげのできる集団をどのように育てていくかについて構想し、実践していく。
- ③ 体験的な活動が生きる単元構成モデルをもとにした実践を重ね、その利点と問題点を明らかにし、モデルの修正をしていく。

参考文献

- 小原友行「『社会研究』としての社会科の授業構成」『学校教育』No.878 広島大学附属小学校学校教育研究会 1990年
- 名古屋市社会科教育研究会『21世紀に生きる社会科授業』 浜島書店 1990年
- 「社会科教育」No.182 明治図書 1978年
- 「社会科教育」No.203 明治図書 1980年
- 「社会科教育」No.215 明治図書 1981年